

特 集

国際学術討論会

東アジア世界の歴史と現代

——グローバル化の中で——

主催 河合文化教育研究所・北京大学歴史学系

協力 龍谷大学文学部歴史学科東洋史学専攻

第13回日中共同学術討論会（2018年8月）

はしがき

河合文化教育研究所と北京大学歴史学系との共同学術討論会の第13回は、2018年8月26日に、龍谷大学文学部歴史学科東洋史学専攻の協力により京都の龍谷大学清和館ホールで行われた。この第13回は諸般の事情により日本での最後の開催となった。日本での最後の開催ということで、北京大学歴史系のみならず第11回開催でお世話になった吉林省長春市にある東北師範大学歴史系及び第12回開催でお世話になった滇西科技師範学院の方々にも参加していただろうと依頼したのだが、滇西科技師範学院の先生の都合がつかず、結局中国側からは北京大学歴史系と東北師範大学の先生方に参加していただくことになった。

今まで13回開催されてきたわけだが、第1回が開催されたのは2002年3月であり、足かけ16年にわたって兎にも角にも継続されたことを言祝ぐと共にそれを支えていただいた河合文化教育研究所及び北京大学歴史系の関係者各位に感謝の気持ちを捧げたい。またこの討論会に参加していただいたすべての人々にも同様の感謝の気持ちを捧げたい。今後どうなるかについては未定だが、この第13回を一つの節目として、この学術討論会のこれまでの経緯を簡単に振り返ってみたい。

この共同学術討論会が開催されるに至った経緯についてはこの『研究論集』の「第1集」に収録されている「第1回共同学術討論会」の「はじめに」に詳述されているからここで繰り返

する必要はないが、河合文化教育研究所と北京大学歴史学系との関わりは1990年に始まっている。この時点から換算すれば実に30年近く何らかの関係が持続されてきたことになり、感無量というような言葉が思い浮かんでくるが、しかし実態としてはこうした感慨を懐くような余裕はまったくなかったと言わねばならない。

私たちの行ってきたこの文化交流は「学術討論」と名乗ってはいるが、大学などが主宰するような所謂「学会」的なものではないし、高度な中国に関する専門家を前提としたような「学術討論」を目ざしていたわけではない。共催している北京大学歴史学系の先生方も、私たち河合文化教育研究所を大学に匹敵する学術集団などとは見なしていなかっただろう。あくまでも民間交流という形で、お互いに学術的なレベルの向上というよりも自由闊達な意見交換、人的交流が目ざされていたといった方がよいだろう。政治的なあり方からいえば、中国社会が日本社会に比較して緊張を強いられる世界であるということは、中国の地に足を付けた瞬間から実感せざるを得なかったわけだが、かといってその緊張故に政治的な課題を封印するなどというような付度を私たちが行うことはなかったように思われる。勿論、そのことで中国側に多大の緊張を強いることになったのかも知れないが、ある種の「率直さ」を示し合うことで何となくお互いの許容範囲を広げていくことができたようで、それが13回の持続に繋がっていったように思われる。しかし、この13回に及ぶ交流によって中国の人々とそれなりの信頼関係は築けたようであるが、かといって私たちは、中国という社会のあり方についての理解が深まったとは到底言い得ないということを感じざるを得ないのである。それが私たちの余裕のなさの基本的な理由である。不断に中国社会のわかりにくさが突きつけられているようで、それが逆に持続を可能にしたかもしれない。勿論、異文化を「分かる」とはどういうことなのかということ自体大きな問題であるが、容易にはわかり得ないということが解ったことだけでも大きな収穫であったと考えたい。

ともあれ、私たち自身の備忘という意味合いにおいて、今までの12回の日中共同学術討論会の概要を記しておきたい。第13回の具体的な内容は本文に譲りたい。

第1回 2002年3月23・24日 於 北京、北京大学歴史学系会議室

発表者 谷川道雄・八箇亮仁・堀江雅明・山田伸吾（河合文化教育研究所）
林承節・閻歩克・王小甫・王新生（北京大学歴史系）

第2回 2003年3月21・22日 於 北京、北京大学歴史学系会議室

発表者 谷川道雄・山田伸吾・金瑛二・河上洋・森本英之（河合文化教育研究所）
榮新江・閻歩克・王小甫・蔣非非・宋成有（北京大学歴史学系）

第3回 2004年8月29日 於 京都、河合塾京都校教室

発表者 谷川道雄・河上洋・八箇亮仁・大谷敏夫（河合文化教育研究所）
閻步克・蔣非非・劉浦江・高岱（北京大学歴史学系）
特別講演 牛大勇（北京大学歴史学系教授・歴史学系主任）

第4回 2005年8月27日 於 京都，京大会館会議室
発表者 谷川道雄・八箇亮仁・吉尾寛・大塚克彦（河合文化教育研究所）
陳蘇鎮・張帆・王天有・王新生（北京大学歴史学系）

第5回 2006年8月26日 於 京都，京大会館会議室
発表者 杉井一臣・小林賢治・金瑛二・山田伸吾（河合文化教育研究所）
蔣非非・王小甫・宋成有・徐勇（北京大学歴史学系）

以上第1回から5回までは「アジアの歴史と近代」というテーマを掲げて開催されてきた。ただ、このテーマはほぼどのような内容にも対応しうるものであり、アジア世界に関わるものであれば何でも可能であるというような拘束力の弱いものであったが、第6回からは開催地と絡めて若干の縛りを加えた「副題・サブテーマ」も設定されるようになった。

第6回 2008年3月17・18日 於 中国，新疆ウイグル自治区石河子市
石河子大学政法学院歴史系・新疆屯懇・文化研究院
（河合文化教育研究所，北京大学歴史学系，石河子大学共催）
「副題」 シルクロードと東西文化交流一日中の歴史，文化と教育―
発表者 河上洋・吉尾寛・山田伸吾・金瑛二・井上徳子（河合文化教育研究所）
宋曉梅・鄭亮・郭院林・王宗磊・張安福（石河子大学）
王小甫・李志生・彭小瑜・徐凱・蔣非非（北京大学歴史学系）

第7回 2009年8月23日 於 名古屋，河合塾千種校ホール
「副題」 唐宋変革と東アジア世界
発表者 杉井一臣・金瑛二・八箇亮仁・山田伸吾（河合文化教育研究所）
辛徳勇・李志生・張帆・王曉秋（北京大学歴史学系）

第8回 2010年8月23日 於 京都，龍谷大学大宮キャンパス
（河合文化教育研究所・龍谷大学文学研究科東洋史学専攻・北京大学歴史学系共催）
「副題」 世界史としての中国史
発表者 高木智見・葭森健介・吉尾寛・山田伸吾（河合文化教育研究所）

劉華祝・辛德勇・何晋・王新生（北京大学歴史学系）

第9回 2011年7月22日 於 中国, 内モンゴル自治区フフホト市,
内モンゴル大学学術会議センター

（河合文化教育研究所・北京大学歴史学系・内モンゴル大学・内モンゴル師範大学共催）

「副題」 東アジアと遊牧社会

発表者 石本利宏・河上洋・山田伸吾（河合文化教育研究所）

常宝（内モンゴル師範大学），党宝海・張帆・李新峰（北京大学歴史学系）

第10回 2013年8月26日 於 京都ガーデンパレス 鞍馬の間

「副題」 「現代」と歴史学

発表者 八箇亮仁・山田伸吾（河合文化教育研究所）

王元周・張帆（北京大学歴史学系），王宗磊（石河子大学）

巴孟和（内モンゴル師範大学）

第11回 2014年8月27日 於 中国吉林省長春市 東北師範大学歴史文化学院

（河合文化教育研究所・北京大学歴史学系・東北師範大学歴史文化学院共催）

「副題」 日中民間交流の昨日と明日

発表者 山田伸吾・八箇亮仁・柴田幹夫（河合文化教育研究所）

楊棟梁（南開大学），王元周（北京大学），巴孟和（内モンゴル師範大学）

周頌倫（東北師範大学）

第12回 2016年8月27日 於 中国雲南省臨滄市 滇西科技師範学院

（河合文化教育研究所・北京大学歴史学系・滇西科技師範学院共催）

「副題」 近代化と地方史

発表者 八箇亮仁・柴田幹夫（河合文化教育研究所）

王元周・唐利国（北京大学歴史学系），羅春梅・楊明輝（滇西科技師範学院）

山田伸吾